



2022年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年8月4日

上場会社名 セーレン株式会社

上場取引所 東

コード番号 3569 URL <https://www.seiren.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼最高経営責任者 (氏名) 川田 達男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 経営企画本部長 (氏名) 川田 浩司

TEL 0776-35-2111

四半期報告書提出予定日 2021年8月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第1四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|---------------|--------|------|-------|-------|-------|-------|------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年3月期第1四半期 | 27,445 | 29.8 | 3,262 | 124.1 | 3,382 | 255.5 | 2,460 | 866.2 |
| 2021年3月期第1四半期 | 21,143 | 29.4 | 1,455 | 42.8 | 951 | 64.4 | 254 | 86.7 |

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 4,990百万円 (%) 2021年3月期第1四半期 1,635百万円 (%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|---------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年3月期第1四半期 | 45.86 | 39.30 |
| 2021年3月期第1四半期 | 4.59 | 4.55 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|---------------|---------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 2022年3月期第1四半期 | 147,452 | 84,961 | 56.7 | 1,558.91 |
| 2021年3月期 | 144,702 | 80,897 | 55.0 | 1,484.52 |

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 83,637百万円 2021年3月期 79,623百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年3月期 | | 18.00 | | 18.00 | 36.00 |
| 2022年3月期 | | | | | |
| 2022年3月期(予想) | | 18.00 | | 18.00 | 36.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|-----------|---------|------|--------|------|--------|------|-----------------|-------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 53,000 | 21.8 | 5,000 | 75.8 | 5,500 | 83.2 | 3,800 | 204.4 | 70.84 |
| 通期 | 109,000 | 10.4 | 10,400 | 21.2 | 10,700 | 13.2 | 7,500 | 20.0 | 139.80 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|------------|--------------|------------|--------------|
| 2022年3月期1Q | 64,633,646 株 | 2021年3月期 | 64,633,646 株 |
| 2022年3月期1Q | 10,982,360 株 | 2021年3月期 | 10,997,660 株 |
| 2022年3月期1Q | 53,639,811 株 | 2021年3月期1Q | 55,489,350 株 |

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

○添付資料の目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報..... | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明..... | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明..... | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明..... | 4 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記..... | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表..... | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書..... | 7 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間..... | 7 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間..... | 8 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書..... | 9 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項..... | 10 |
| (継続企業の前提に関する注記)..... | 10 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)..... | 10 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)..... | 10 |
| (会計方針の変更)..... | 10 |
| (セグメント情報等)..... | 11 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における経済環境は、新型コロナウイルス感染症拡大による世界的な需要縮小ならびに経済活動の制約の影響が続き、依然として厳しい状況となりました。ワクチン接種の広がりにより、緩やかに持ち直しの動きが期待されるものの、緊急事態宣言の再発出や変異株の発生など、未だ収束の見通しが難しく、先行き不透明な状態が続くと予測されます。

このような環境のもと、当社グループは、中期方針「未知の可能性への挑戦！」に基づき、変化し続けるお客様ニーズに応え、安定した収益確保と継続的な成長を果たすため、「イノベーションと顧客開発」および「企業体質の再建」を柱とした事業戦略を推進しております。併せて、企業の潜在力である人材力、開発力、環境対応力を高める経営を継続し、企業体質の強化に取り組んでおります。

当第1四半期の連結業績は、売上高 274 億 45 百万円（前年同期比 29.8%増）、営業利益 32 億 62 百万円（同 124.1%増、2.2 倍）、経常利益 33 億 82 百万円（同 255.5%増、3.6 倍）、親会社株主に帰属する四半期純利益 24 億 60 百万円（同 866.2%増、9.7 倍）となりました。

[セグメント別の業績概況]

(車輛資材事業)

前年同期は、新型コロナウイルス感染症の拡大によるロックダウン、操業停止等による落ち込みがありました。その後の自動車関連産業の堅調な回復により、当第1四半期は売上高・利益共に前年同期実績を大幅に上回りました。

海外事業（2021年1月～3月）では、各国の新型コロナウイルスの影響からの回復基調の中でも、特に中国経済の景気回復が大きく、「クオーレ®」をはじめとする差別化商品の販売が堅調に推移し、海外事業全体では前年同期比で増収・増益となりました。

国内事業（2021年4月～6月）では、新型コロナウイルスの影響からの回復の一方で、世界的な半導体不足による減産の影響は出ているものの、前期から継続する経費削減等の効果もあり、前年同期比で増収・増益となりました。

当事業の売上高は 163 億 9 百万円（前年同期比 47.0%増）、営業利益 22 億 43 百万円（同 243.6%増）となりました。

(ハイファッション事業)

新型コロナウイルス感染症拡大による、衣料品の主力販売店舗の休業の影響を受け、ファッションアパレルは伸び悩みましたが、アウトドア人口増加の影響により、スポーツアパレル、インナーアパレルは売上高・利益共に前年同期実績を上回りました。

しかしながら、淘汰が進むアパレル業界では、国内外で老舗ブランドや大手アパレルの大規模な店舗数削減の動きが見られ、生き残りをかけた競争は一層厳しさを増しています。

近年、アパレル業界や消費者において、環境に配慮したモノづくりに関心が高まるなか、差別化商品を小ロット・短納期・在庫レスで製造する当社独自のデジタルプロダクションシステム「Viscotecs®」に注目が集まっております。このような環境のもと、今後、大きく変化していくであろうアパレル業界において、多彩な商品展開を在庫レスで実現し、バーチャル試着で好みの商品をオーダーすることができる「Viscotecs make your brand®」こそが、時代にマッチした衣料品の製造販売プラットフォームと考え、ファッション向けBtoB事業の拡大に注力してまいります。

当事業の売上高は46億87百万円（前年同期比13.4%増）、営業利益 1 億 9 百万円（前年同期比 1 億 3 百万円増）となりました。

(エレクトロニクス事業)

新型コロナウイルス感染症拡大による、リモートワークの急速な拡大や外出機会の減少による巣ごもり需要を背景に、ハードディスクやゲーム機器の需要が高まり、導電性素材「プラット®」やKBセーレン(株)のワイピングクロス「ザヴィーナ®」HDD テープにおいて特需がありました。一部のエレクト

ロニクス商品で、客先での販売不振や在庫調整の影響を受けました。今後は、スーパー繊維「ゼクシオン®」(LCP)の拡販と共に、次世代エンブラ繊維「グラディオ®」(PPS)の生産を本格化し、新規顧客開拓ならびに用途開発を進めてまいります。

当事業の売上高は25億50百万円(前年同期比2.9%増)、営業利益は4億61百万円(同29.7%増)となりました。

(環境・生活資材事業)

新型コロナウイルス感染症拡大により落ち込んだ前年に対する反動もあり、売上高・利益共に前年同期実績を上回りました。

ハウジング資材関連は住宅着工数の回復、オフィス・インテリア資材関連は、病院・介護向けに機能性を高めた製品の受注増加等により、売り上げが回復しました。

また、産業資材関連ではエクステリア等の新規顧客開拓があり、売上高を伸ばしました。

当事業の売上高は20億42百万円(前年同期比17.8%増)、営業利益は2億76百万円(同33.3%増)となりました。

(メディカル事業)

新型コロナウイルス感染症の影響拡大後、外出自粛による化粧品消費の低迷などにより、前年度はコモース化粧品の売上高が減少しましたが、直営店および自社ECサイトの回復、ならびに化粧品OEM受注により、売上高を伸ばしました。

一方で、医療用資材では、病院の一般診療の減少に伴い、既存客先での売上高が戻らず、高付加価値商品が伸び悩みました。

コロナ禍において発売した高性能抗ウイルスマスク「BYERUS®」の開発で培った抗ウイルス技術については、インテリア、介護分野等、異なる分野へ応用展開を進めております。

当事業の売上高は16億18百万円(前年同期比9.1%増)、営業利益は3億70百万円(同9.2%減)となりました。

(その他の事業)

(株)ナゴヤセーレンの不動産賃貸管理事業やセーレン商事(株)の保険代理業が堅調に推移しました。

当事業の売上高は2億35百万円(前年同期比8.9%増)、営業利益は1億41百万円(同9.5%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して27億50百万円増加の1,474億52百万円となりました。流動資産は、棚卸資産の増加等により、前連結会計年度末と比較して26億54百万円の増加となりました。固定資産は、投資有価証券の減少がありましたが、海外子会社の財務諸表の換算レートが円安になったことにより、有形固定資産が増加し、前連結会計年度末と比較して95百万円増加しました。負債の部は、支払手形及び買掛金の減少などにより、13億13百万円減少し、624億91百万円となりました。純資産は、為替換算調整勘定の変動や、利益剰余金の増加などにより、全体で40億63百万円増加し、849億61百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は405億23百万円となり、前連結会計年度末より10億25百万円増加しました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、16億53百万円の収入(前年第1四半期連結累計期間は19億3百万円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益32億8百万円、減価償却費11億20百万円などによるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、2億46百万円の支出(前年第1四半期連結累計期間は1億45百万円の収入)となりました。これは主に、有価証券・投資有価証券の売却・償還による収入が5億18百万円あった一方で、有形固定資産の取得による支出が9億98百万円あったことなどによるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、13 億 36 百万円の支出（前年第 1 四半期連結累計期間は 76 億 72 百万円の収入）となりました。これは主に、配当金の支払による支出 9 億 65 百万円などによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第 1 四半期連結累計期間においては、車輛資材事業が中国経済の景気回復を受けて好調に推移したことや、半導体不足による自動車減産の影響をあまり受けなかったことから、計画を上回る進捗となりました。また、ハイファッション事業においては、市況を厳しく予想しておりましたが、スポーツ、インナー向けの受注が回復し、収益が改善いたしました。先行きについては、引き続き半導体不足や新型コロナウイルス感染症拡大の影響が懸念されますが、第 2 四半期連結累計期間および通期の業績予想につきましては、第 1 四半期の業績及び今後の業績動向などを踏まえ、2021 年 5 月 19 日に公表いたしました当初の業績予想を上方修正いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日) |
|----------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 42,337 | 43,052 |
| 受取手形及び売掛金 | 26,300 | — |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | — | 26,243 |
| 有価証券 | 298 | 100 |
| 商品及び製品 | 10,085 | 10,681 |
| 仕掛品 | 2,916 | 3,046 |
| 原材料及び貯蔵品 | 4,646 | 5,174 |
| その他 | 1,689 | 2,631 |
| 貸倒引当金 | △6 | △7 |
| 流動資産合計 | 88,267 | 90,922 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 20,830 | 20,905 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 9,244 | 9,410 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 445 | 424 |
| 土地 | 11,958 | 12,080 |
| リース資産 | 203 | 178 |
| 建設仮勘定 | 849 | 1,218 |
| 有形固定資産合計 | 43,532 | 44,218 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 964 | 923 |
| その他 | 2,704 | 2,801 |
| 無形固定資産合計 | 3,668 | 3,725 |
| 投資その他の資産 | | |
| その他 | 9,340 | 8,692 |
| 貸倒引当金 | △107 | △105 |
| 投資その他の資産合計 | 9,233 | 8,586 |
| 固定資産合計 | 56,434 | 56,529 |
| 資産合計 | 144,702 | 147,452 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 15,176 | 14,644 |
| 短期借入金 | 4,521 | 4,641 |
| 未払法人税等 | 858 | 604 |
| 賞与引当金 | 1,270 | 499 |
| その他 | 4,190 | 4,745 |
| 流動負債合計 | 26,018 | 25,135 |
| 固定負債 | | |
| 新株予約権付社債 | 15,420 | 15,397 |
| 長期借入金 | 14,406 | 13,942 |
| 役員退職慰労引当金 | 131 | 131 |
| 退職給付に係る負債 | 6,406 | 6,412 |
| その他 | 1,421 | 1,471 |
| 固定負債合計 | 37,785 | 37,355 |
| 負債合計 | 63,804 | 62,491 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 17,520 | 17,520 |
| 資本剰余金 | 16,794 | 16,790 |
| 利益剰余金 | 60,329 | 61,824 |
| 自己株式 | △14,424 | △14,404 |
| 株主資本合計 | 80,219 | 81,730 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,461 | 2,367 |
| 為替換算調整勘定 | △3,098 | △499 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 41 | 38 |
| その他の包括利益累計額合計 | △595 | 1,906 |
| 新株予約権 | 618 | 639 |
| 非支配株主持分 | 655 | 684 |
| 純資産合計 | 80,897 | 84,961 |
| 負債純資産合計 | 144,702 | 147,452 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 21,143 | 27,445 |
| 売上原価 | 15,011 | 19,145 |
| 売上総利益 | 6,132 | 8,300 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,676 | 5,037 |
| 営業利益 | 1,455 | 3,262 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 75 | 55 |
| 受取配当金 | 69 | 75 |
| 雇用調整助成金 | 53 | 51 |
| その他 | 148 | 143 |
| 営業外収益合計 | 347 | 325 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 13 | 8 |
| 為替差損 | 832 | 187 |
| その他 | 5 | 10 |
| 営業外費用合計 | 851 | 205 |
| 経常利益 | 951 | 3,382 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 3 | 23 |
| 特別利益合計 | 3 | 23 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産処分損 | 36 | 1 |
| 投資有価証券評価損 | — | 195 |
| 操業休止関連費用 | 223 | — |
| その他 | 8 | — |
| 特別損失合計 | 268 | 196 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 686 | 3,208 |
| 法人税等 | 427 | 728 |
| 四半期純利益 | 259 | 2,480 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 4 | 20 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 254 | 2,460 |

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 259 | 2,480 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 350 | △94 |
| 為替換算調整勘定 | △2,248 | 2,607 |
| 退職給付に係る調整額 | 3 | △3 |
| その他の包括利益合計 | △1,894 | 2,510 |
| 四半期包括利益 | △1,635 | 4,990 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △1,598 | 4,962 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △36 | 28 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日) |
|--------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 686 | 3,208 |
| 減価償却費 | 1,178 | 1,120 |
| 投資有価証券評価損益(△は益) | — | 195 |
| 固定資産処分損益(△は益) | 33 | △21 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | 1 | △0 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | △851 | △771 |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) | 57 | 1 |
| 受取利息及び受取配当金 | △145 | △130 |
| 支払利息 | 13 | 8 |
| 為替差損益(△は益) | 1,243 | △110 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 4,401 | 889 |
| 棚卸資産の増減額(△は増加) | △342 | △848 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △3,217 | △1,078 |
| 未払消費税等の増減額(△は減少) | △345 | 30 |
| その他 | △253 | △145 |
| 小計 | 2,461 | 2,345 |
| 利息及び配当金の受取額 | 141 | 108 |
| 利息の支払額 | △13 | △8 |
| 法人税等の支払額又は還付額(△は支払) | △686 | △792 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,903 | 1,653 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △562 | △998 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 12 | 32 |
| 有価証券及び投資有価証券の取得による支出 | △9 | △12 |
| 有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入 | — | 518 |
| 定期預金の純増減額(△は増加) | 721 | 310 |
| その他 | △16 | △96 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 145 | △246 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | 4,049 | — |
| 長期借入れによる収入 | 5,000 | — |
| 長期借入金の返済による支出 | △347 | △344 |
| 配当金の支払額 | △998 | △965 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | △4 | — |
| その他 | △26 | △26 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 7,672 | △1,336 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △970 | 956 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 8,750 | 1,025 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 16,747 | 39,498 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 25,497 | 40,523 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日)を当第1四半期連結会計期間の期首より適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、有償支給取引について、従来は有償支給した支給品等について消滅を認識しておりましたが、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第1四半期連結会計期間の「原材料及び貯蔵品」及び流動負債の「その他」がそれぞれ2億57百万円増加しております。なお、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント(注)1 | | | | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3 |
|---------------------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------|--------|-------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | 車両資材 | ハイファ ッション | エレクト ロニクス | 環境・ 生活資材 | メディカル | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 11,095 | 4,135 | 2,477 | 1,734 | 1,483 | 20,927 | 215 | 21,143 | — | 21,143 |
| セグメント間の 内部売上高又は 振替高 | 0 | 7 | 23 | 7 | 1 | 40 | 150 | 191 | △191 | — |
| 計 | 11,096 | 4,143 | 2,500 | 1,742 | 1,484 | 20,967 | 366 | 21,334 | △191 | 21,143 |
| セグメント利益 | 652 | 6 | 355 | 207 | 407 | 1,630 | 129 | 1,759 | △303 | 1,455 |

II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント(注)1 | | | | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3 |
|---------------------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------|--------|-------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | 車両資材 | ハイファ ッション | エレクト ロニクス | 環境・ 生活資材 | メディカル | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | | | |
| 顧客との契約から生じ る収益 | 16,309 | 4,687 | 2,550 | 2,042 | 1,618 | 27,209 | 93 | 27,303 | — | 27,303 |
| その他の収益 | — | — | — | — | — | — | 141 | 141 | — | 141 |
| 外部顧客への 売上高 | 16,309 | 4,687 | 2,550 | 2,042 | 1,618 | 27,209 | 235 | 27,445 | — | 27,445 |
| セグメント間の 内部売上高又は 振替高 | 0 | 7 | 55 | 13 | 1 | 78 | 125 | 204 | △204 | — |
| 計 | 16,310 | 4,695 | 2,605 | 2,056 | 1,620 | 27,288 | 361 | 27,649 | △204 | 27,445 |
| セグメント利益 | 2,243 | 109 | 461 | 276 | 370 | 3,461 | 141 | 3,603 | △340 | 3,262 |

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

(1) 車両資材……………自動車・鉄道車両等内装材(シート材、エアバッグ、加飾部品)

(2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工

(3) エレクトロニクス……………導電性素材、工業用ワイピングクロス、ビスコテックス・システムおよびサプ
ライ、電子機器、シリコンウェーハの成膜加工等、人工衛星

(4) 環境・生活資材……………建築用資材、インテリア用資材、健康・介護商品、環境・土木資材

(5) メディカル……………医療用資材、化粧品、水処理用資材

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発及び販
売、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第1四半期連結累計期間
322百万円、当第1四半期連結累計期間356百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに
帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。